

## 初期キャリア研究者の研究活動環境とニーズ

### 調査結果の報告

研究支援委員会委員／日本福祉大学

大谷 京子

**背景:** 初期キャリア研究者と女性研究者の置かれている厳しい状況が認識されるようになり、実態把握が求められた。2017年度「若手・女性会員の支援のあり方に関するアンケート」を実施し、2018年に報告書が提出されている。



その後も初期キャリア研究者の研究活動環境が改善されたとは言えず、学会におけるサポートの必要性も指摘されるようになった。

**目的:** 初期キャリア研究者の研究活動環境を把握し、本学会へのニーズを検討する。

#### 調査の方法:

1. インタビュー調査 30代～50代の初期キャリア研究者8人を対象 質的統合法による分析
2. 質問紙調査 Google フォームによるオンライン調査

#### 結果:

研究について… 研究の方法・作法

「自分の研究には価値があるのか」

研究に専念できる環境がない(専門学校、社会福祉機関・施設)

将来への不安… 「研究者として通用するか」「将来の経済状況に関して不安」

「将来の就職に不安」研究職ポストがない。

経済的困窮… 経済的負担感ある(非常勤、専門学校、社会福祉機関・施設)

研究費ない(非常勤、専門学校、社会福祉機関・施設)、

競争的資金獲得の難しさ

時間の捻出… 研究に専念できる時間がない(40代、任期なし)

ソーシャルワーク実習・演習の負荷

出産・育児、介護による時間的制限が主に女性に課せられ、業績が減少

ハラスメント… 22.9%が「ある」。アカデミックハラスメント、パワーハラスメントが多い。

ネットワーク… 相談相手について4割が「ない」と回答。初期キャリア研究者との交流、共同研究の場、研究仲間づくり、ロールモデルとの出会いへの期待

#### 研究分担者

研究支援委員会委員長 高良麻子(法政大学)

インタビュー調査 鈴木浩之(立正大学)

インタビュー実施 高良麻子(法政大学)・鈴木浩之(立正大学)・

中里哲也(帝京科学大学)・永野咲(武蔵野大学)

量的調査分析 大谷京子(日本福祉大学)・永野咲(武蔵野大学)

報告書はこちら

